

インターネットの積極活用

ブログ、ツイッター、SNSといった、インターネットを介してコミュニケーションをはかるツールは、生徒や保護者に学校の考えを伝え、また広く外部に学校の取り組みを広めるためにも有用です。日々、新しくなるICTやインターネット上のサービスを取り入れ、試行錯誤しながら進路指導に役立てているデジタル先進校の事例を紹介します。

取材・文／平井美里

兵庫・県立明石北高校

校内の日常をブログに綴り 保護者の安心感につなげる

ブログの題材を探すことで アンテナを高く張れる

明石北高校の校長・栗岡誠司先生は、自身の子どもが高校生だった頃、普段の学校生活の様子や伝わってこないことに親の立場からもどかしさを感じていました。明石北に子どもを通わせる保護者には、もともと学校の日常の様子を伝えたいの思いから、昨年5月にブログ「明石北高校校長室」を書き始めた。

内容は、授業や部活動など生徒の活動の様子や、イベントの告知と報告など。式辞の掲載など文章が長い日もあるが、短く日常生活の気づきだけの日もある。「気負わないことが継続のコツ」だという。

大学入試期間中には次のような文を掲載した。「私大の入試が本格化、連日いくつもの大学で入試がおこなわれています。三年生諸君は全力で入試に取り組んでいることと思います。また、国公立の二次試験を目指して、ラストスパートをかけていることでしょうか。同窓会館では、何人かの三年生が黙々と頑張っています」

こうした入試に挑む生徒の姿などは、保護者の安心にもつながるだろうし、受験勉強に向かう生徒の励みにもなるだろう。保護者から「読んでいますよ」と声をかけられることも多いそうだ。最近では広く知ってもらえるよう、名刺にブログアドレスのQRコードを印刷している。

ブログがきっかけで、学校で起きている何気ないことを見逃さないようになったというメリットもある。校内の状況を把握することは、校長として当然だが、ブログを書くことによって、よりアンテナを高く張れるようになったと感じているようだ。

校長自ら執筆するので、起こったことをその日に掲載でき、責任の所在も明確と、校長が書くメリットは多い。「客観的な事実を書くようにしていますが、個人的な考えが入ることもある。そういう文章も校長のブログなら発信できます。高校入試が総合選抜制度から複数志願制度に変更となり、本校が大きく変化している今、外部の人にに向けてブログで情報を発信することも意味があると考えています」



校長 栗岡誠司先生

>> School Data

普通科／1972年創立
生徒数／1031人
(男子522人・女子509人)
進路状況(2009年度実績)／
大学・短大 72.0%・
専門 14.5%・就職 3.8%・
その他・未定 9.7%
兵庫県明石市大久保町松陰364-1
TEL 078-936-9100
URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/meihoku-hs/>
Twitter @meihoku



進路指導部長
長坂 潔先生



情報システム担当
伊藤 彰洋先生

愛知・私立聖カピタニオ女子高校 ブログ・ツイッター・SNSを 組み合わせて情報を発信

多くの窓口を設けて 読者をブログ記事に誘導

聖カピタニオ女子高校は、ブログ、ツイッター、SNSの3つのツールを組み合わせて情報を発信している。ペー
ースはブログでつくった公式サイト。ここに学校の基本
情報を掲載し、その中でさらに、キャリア教育、サッカ
ー部の活動、行事の写真、海外研修の4つのブログを運
営している。

「ブログはそれぞれの担当教諭が執筆。内容が多岐
にわたるので、全体として頻繁に更新ができていま
す」と語るのは、同校で情報システムを担当する伊藤
彰洋先生だ。様々な試行錯誤を経て、昨年、無料のブ
ログソフト「ワードプレス」を使ってブログを作り込む
今の体制に落ち着いた。

「ブログで作ったサイトなら、誰でも簡単に操作で
きますし、自宅でも更新できます。また、ブログの更
新情報を自動でツイッターとフェイスブックに反映さ
せられる点も便利ですね」

ツイッターでは、行事の様子、ブログの更新情報、入

>>> School Data
普通科 / 1963年創立
生徒数 / 460人(女子のみ)
進路状況(2009年度実績) /
大学 69.9%・短大 11.7%・
専門 11.7%・就職 1.8%・
その他 4.9%
愛知県瀬戸市西長根町137
TEL 0561-82-7711
URL <http://www.st-capitanio.ed.jp>
Twitter @St_Capitanio

試情報などをつぶやいている。ツイッターのリンクをた
どってブログを読みにくる人も多く、現在はブログの
窓口的な役割を果たしている。
海外に利用者が多いSNS「フェイスブック」にある
同校の公式ページは、留学中の生徒が学校の様子を
知ったり、卒業生同士が連絡をとりあったりするこ
とに主に使われている。

生徒と教師の接点として ブログがあってもいい

この仕組みを使い、進路指導部長・長坂潔先生が、
同校の進路指導の取り組みを発信している。

「本校では、16歳で入学した生徒の10年後を見据
える『Mission C26』というテーマを掲げてキャリ
ア教育に取り組んでいます。その理念や内容をでき
るだけ多くの人に知ってもらいたいという思いでプロ
グを書き始めました。最近では、保護者や教育関係者
から反響をいただくことも増えていて、継続の励みにな
っています」

取り組みを広く知ってもらうことで、外部の協力

を得られることもある。今年10月には、ブログをきつ
かけにキャリア教育についてやりとりのあった新聞記
者を講師に招き、仕事ガイダンスを行った。

生徒に対してはどうか。今のところ、ネットを介し
て生徒とやりとりすることはないが、読まれている手
応えは感じているという。「Mission C26」内
は、在校生のために、卒業生のキャンパスレポートを掲
載したり、日々の更新に進路指導の立場から発信す
るメッセージを盛り込んでいたりしている。

「ダイレクトに言うより記事を通して伝えたいほう
が素直に受け止めてくれることもあります。先日は、
体育祭でのエピソードに絡めて、感謝の気持ちを忘れ
ないでほしいと伝えました。生徒と教師のかかわり方
のひとつとしてブログがあってもいいと思います」

用語解説

Blog(ブログ)

専門知識がなくても、簡単に自分の日記や意見をウェブ上で公開できる。1つ
の記事のなかに、長い文章や複数の写真を載せることも可能。FC2、Seesaa
など、無料のブログサービスも多く提供されていて、はてなダイアリーなど広告が
表示されないものもある。【始め方】ブログサービスを選び、メールアドレスなどを
フォームに入力するだけで始められる。知識は多少必要だが、学校のサーバーで
運用でき拡張可能なWordPressなどもある。

Twitter(ツイッター) <http://twitter.com>

140字以内の「ツイート(つぶやき)」を投稿するミニブログ。文章の短さゆえの気
楽さも手伝って急速に広まった。携帯電話にも対応していて、登録しなくても人
の投稿を読むことが可能。【始め方】twitterのサイトにアクセスし、「登録する」を
クリック→名前、ユーザー名、パスワード、メールアドレスを入力し、「アカウントを
作成する」をクリックすると登録となる。

SNS

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。会員制で、参加者は、日記や写真を
投稿して友達とのコミュニケーションを楽しんだり、サイト内のコミュニティを通じて
新しい人間関係を築いたりする。日本では「mixi(ミクシィ)」「GREE(グリー)」、
世界的には「Facebook(フェイスブック)」「My Space(マイスペース)」などが広
く使われている。地域や特定の分野にかかわる人だけが参加するSNSもある。



情報科教諭
畑井克彦先生

兵庫・伊丹市立伊丹高校

地域SNSの活用で

地元商店街や大学と連携

完全招待制・本名登録で

高校生に安全な環境を実現

地域連携と高大連携のプロジェクトにSNSを導入し、生徒に大学生や地域の大人と触れ合う機会を提供しているのは伊丹市立伊丹高校だ。同校の情報科教諭として、8年前からこの取り組みを推進してきた畑井克彦先生は、「SNS『出会い系』という認識でSNSに拒否感をもつ人は多いけれど、参加者を制限できるSNSなら高校生も安全に利用できる」と語る。

同校の情報科は、2003年度より、地元商店街を元気にする「いたみ商店街活性化プロジェクト」に取り組んでいる。生徒は各自が担当する商店の店主と直接相談し、元気にする方法を考えて実践。これまでに100円商店街やハロウィンパーティーといったイベントを行ってきた。また週に1度、関西学院大学の学生がフィールドワークの講座として授業に参加し、高校生の活動に力を貸している。

この活動で使われているのが「いたまちSNS」だ。

» School Data	
普通科、グローバル・コミュニケーションコース、商業科 /	
1907年創立	
生徒数 / 751人	
(男子285人、女子466人)	
進路状況(2009年度実績) /	
大学 52.0%・短大 9.5%・	
専門 21.0%・就職 8.5%・	
その他 9.0%	
兵庫県伊丹市行基町4-1	
TEL	072-772-2040
URL	http://www.h-itami.itami.ed.jp
SNS	http://sns.itamachi.jp/

「OpenSNS」というシステムを使って06年に開発され、商店街の店主と一緒に活動する大学生との連絡、授業の日報作成、個人的なブログ・コミュニティの作成に活用されている。ファイルの送受信が可能など、一般的なSNSにない機能も付加した。参加するためには、参加者の招待と、本名と住所の登録が必要(公開はされない)という厳格な管理体制で、高校生にとって安全な環境を保持。現在、約700人の伊丹高校生、約400人の卒業生、約500人の地域の人と大学生が参加している。

プロセスの可視化により 多くの人が参加可能に

SNS活用のメリットについて、畑井先生は「非同期性」と「プロセスの履歴化・可視化」を挙げる。「イベントの準備をするために、店主や大学生と話し合わなければいけません。商店街のミーティングは閉店後の夜8時以降で、高校生が参加するのは難しい。SNSを使えば、各自が都合のいい時間に意見を書き込むことができ、予定を合わせる必要がありません」

せん(非同期)。またプロセスは履歴として残るので、週に1度しか会わない大学生も進捗を確認でき、イベントの準備がうまくいっていないと、「もっと商店街の人と連絡を取り合ったほうがいいよ」などとアドバイスを書き込んでくれます。高校生は大学生と交流することで、「偏差値ランキングの中の大学」が「実態としての大学」に変わっていくようです。

SNSはツールであり、リアルな人間関係がベースとして欠かせないが、その絆を強めるためにSNSが有効に働くと畑井先生は強調する。「阪神大震災で私たちは、学校という地域コミュニティの核となる場の人々が緩やかなつながりで集まっていたことが、安心・安全な暮らしを支えてくれることを学びました。全国の先生には、ぜひ地域SNSを活用して『開かれた学校づくり』を実現してほしい。熱い思いを持った地域の人を巻き込んで行動すれば絶対にできます」

■いたまちSNSのトップページ



【プロフィール】自己紹介や写真、メッセージなどを掲載
【トモダチ】相互の承認により「トモダチ」になった人のページへのリンク
【ブログ】日記にはトモダチがコメントを書き込める。公開範囲は自分で設定可能
【コミュニティ】クラスや部活、商店街のお店など、グループごとにコミュニティがあり、興味のあるものに参加できる
【新着情報】トモダチのブログ更新や、参加コミュニティへの書き込みが、自分のページに表示される



進路指導部主任
戸塚丈夫先生



副校長
柴田哲彦先生

東京・私立白梅学園清修中高一貫部

学内、家庭とのネットワーク構築で

業務の効率化と情報の共有を実現

変化する社会で活躍する人材は 新しい道具を使つて育てる

白梅学園清修中高一貫部は、「教科指導、進路指導、生活指導のすべてを包括したオールインワンの授業」の実現を掲げて、2006年に設立された。オールインワンの授業とは、生徒の学力を伸ばすことはもちろん、授業に臨む教師の姿を通して、コミュニケーション能力や自分で自分を教育する力、社会人としてのマナーやルール、他者への思いやりなどを身につかせようとするものである。

実現に向けて、同校はユニークな取り組みを多数実施してきた。授業以外の学校行事や部活動、職員会議などを補完的な活動として大幅に削減。一般的な「部活動」も行わず、教師が教材研究に集中できる環境を整備している。また、業務の効率化と、理解度を高める授業のためにICTを活用している。

ICT活用の一例が、電子情報ボードの設置。すべての教室に配備され、教材共有LANと組み合わせ使用することで、生徒の視覚や聴覚に訴え、好奇心を

刺激する授業を可能にしている。「使えるものは何でも使つて相手の理解を促そうとする教師の姿が、生徒にコミュニケーションのあり方を伝えてくれます。『昨日と同じことをすればいい』という時代は過ぎました。変化する社会で活躍できる人材を育てるためには、新しいツールを使いこなすことも必要でしょう」(副校長 柴田哲彦先生)。

校務の効率化を進めて 個別対応の時間を生み出す

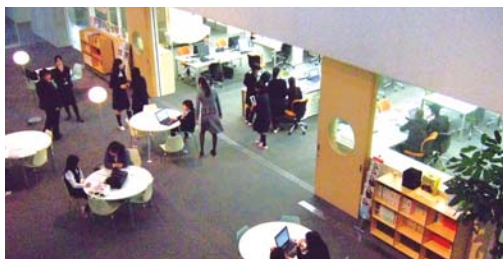
また、教育業界向けに開発された総合コミュニケーションツール「Net Teacher」を導入。全家庭がパソコンを持ち、生徒から先生への質問と宿題の提出、保護者から先生への要望、生徒と保護者へのお知らせ、遅刻・欠席の連絡は、このシステムを使つてやりとりしている。メールと異なり、やりとりはシステム内に蓄積され、担当教員のほか管理者も閲覧が可能だ。保護者からの質問に返信したか、保護者あての二斉送信メッセージをどの保護者がチェックしたかといったことも一覧として表示される。これを確認すれば、各家

>>> School Data
普通科 / 2006年創立
生徒数 / 707人(女子のみ)
東京都小平市小川町1-830
TEL 042-346-5129
URL <http://seishu.shiraume.ac.jp>

用語解説

電子情報ボード

コンピュータ画面を投影するホワイトボードで、投影された画面をペンや指で触ることで操作する。コンピュータと連動しているので、ネット検索をしたり、数学の図形や社会科の資料画像などを映すことが可能。書いた内容は保存して、後から見ることができる。デジタル教材は教師が共有できるので、教師個人の力量による差が生まれにくいという面もある。



職員室前のロビー。学校貸出しのパソコンを使って、生徒たちが課題に取り組んでいる。職員室では教員はノートパソコンを持って毎日違う席に座る

庭が子どもたちの学校生活にどれくらいかわかろうとしているかも見えてくると言う。

校務にもデジタルの力が生かされている。各生徒の成績などは三元管理され、教科ごとの評価コメントはその教科の担当教員が入力したものが、自動的に集約されるため、教員同士の煩雑なやりとりは必要ない。そうしたデジタル化のメリットについて、進路指導部主任の戸塚丈夫先生に聞いた。

「各生徒の詳細な学習履歴がデータとして蓄積されているので、検索性が高く、日常的に確認できる状態になっています。進路指導の際にも、早くて確かなアドバイスをできますし、担任以外の教員も生徒の情報を共有できます。ICTの利用による効率化で時間に余裕ができた分は、生徒に直接向き合う時間が増えました。よりきめ細やかな指導が可能になったと感じています」